

MEIROH

2026 Apr. No.106

30

「令和7年度 社会福祉法人光明会における就労選択支援実績 30件
(内訳：特別支援学校26件 / 一般4件)」

「30」の選択が、
本人を地域を
変えていく。

▶ 「特集：就労選択支援 (P6)」

その支援は、顧客の人生に「役割」と「誇り」を生み出しているか。

顧客のありたい人生を起点に すべてを進化させる



社会福祉法人光明会
理事長 小澤啓洋

— 光明会の次なる挑戦が今始まる —

■ 時代の転換と問われる福祉の本質

社会は今、大きな転換期を迎えています。

制度の見直しや新たな施策の導入が進み、障害福祉の現場においても、これまでの延長線上では通用しない時代に入りました。

とりわけ、令和8年度に予定されている臨時応急的な制度の見直しは、福祉サービスの持続可能性と質の在り方そのものを問い直す、極めて本質的な転換点となるものです。

さらに、国際的な視点から見ても、日本の障害福祉について国連障害者権利委員会が示す、分離された環境における就労の在り方（いわゆるシェルタードワークショップ）に関する指摘は、私たちの支援が真に本人主体のものとなっているのかを問いかけています。

これらは、単なる制度や仕組みの問題ではありません。福祉の在り方そのものが問われているのです。

■ 日本の福祉が積み重ねてきた価値

しかし、ここで忘れてはならないことがあります。

日本の障害福祉は、制度によって生まれたものではありません。先人たちが、目の前の一人に向き合い続けてきた実践の積み重ねによって築かれてきたものです。制度が十分でない時代においても「何があっても見捨てない」という覚悟のもと、一人ひとりの人生に寄り添い続けてきた歴史があります。

その中で育まれてきたものは、単なる支援技術ではありません。人と人とが支え合い、役割を認め合いながら共に生きるという福祉の本質です。

■ 現場実践こそが答えをつくる

だからこそ私たちは問われています。

国際的な議論や制度の動向を踏まえながらも、それらをそのまま当てはめるのではなく、これまで積み重ねてきた日本の福祉の価値を、これからの時代にどう生かしていくのか。

その答えは、制度の中にあるものではありません。現場における一つひとつの支援実践の中にこそあります。

■ 見失ってはならない原点

それでもなお、どれほど環境が変化しようとも、私たちが見失ってはならないものがあります。

それは「顧客のありたい人生を起点にすべてを考える」という福祉の原点です。

ここでいう「ありたい人生」とは、理想を押し付けるものではありません。その人がこれまで歩んできた人生を肯定し「今」を大切にしながら、これからをより良くしていくことです。支援とは、人生を変えることではありません。今をより良く生きるための挑戦を支えることです。

■ 働くことの意味と光明会の支援

光明会がめざすのは、顧客が働くことを通じて社会の中で役割を果たし、誰かを幸せにしながら、自らも充実した人生を生きる姿です。働くことは、単なる手段ではありません。それは社会とつながり、自らの存在価値を実感し、誰かのために力を尽くすことによって、人生に意味を見出していく営みです。

平均工賃の向上は重要な要素の一つではありますが、それ自体を目的としたとき、支援は本質を見失います。

工賃は目的ではありません。顧客が価値ある役割を果たした結果として生まれるものです。

私たちは、顧客が社会の中で役割を果たし、価値を生み出す働きを実現することによって、その結果として工賃が高まる支援を追求していきます。

私たちはその尊い営みを支える存在として、支援する側・される側という関係を超え、顧客とともに歩む伴走支援を実践していきます。人生の主人公は顧客自身です。

私たちは、その人生に寄り添い、可能性を信じ、ともに歩み続ける存在でありたいと考えています。

■ 現状の延長では、未来はつukれない

光明会は現在、中期経営計画のもと、ワイナリー事業や介護サービス包括型グループホーム事業「明朗ハーバー」など、新たな価値を生み出す挑戦を進めています。これらの取り組みは、顧客の人生の可能性を広げると同時に、地域社会に新たな価値を創出する挑戦でもあります。

しかし、その実現は、現状の延長線上にはありません。

「人財の採用・育成・定着、支援の質、財務基盤」

これらすべてを見つめ直し、しなやかで逞しい法人経営へと進化していく必要があります。

■ 変革を支える組織の力

令和8年度は、組織体制の整備、評価制度の見直し（特に非常勤職員の昇給制度）、人財育成の強化、未来の法人経営を担う人材の発掘など、組織基盤の革新に本格的に取り組めます。

法人理念のもとに職員が一体となり、一人ひとりの力が最大限に発揮される組織を築いてまいります。

その積み重ねこそが、顧客のありたい人生を支える最も確かな力になると信じています。

■ 継承する覚悟

私は、創業者小澤定明から託された志を継承する者として、この変革の先頭に立ちます。

「何があっても見捨てない」

この言葉は、単なる理念ではなく、光明会のすべての判断と行動を貫く覚悟です。

職員、顧客、地域社会におけるすべての関係者への敬意と感謝を根底に、信用と信頼で結ばれた強い組織を築いてまいります。

私たちは常に問い続けます。

「それは顧客のありたい人生にとって最善か」

すべての判断と行動は、この問いに照らして選択してまいります。

さらに、志を同じくする同志の実践と響き合いながら、この福祉の在り方を広げてまいります。

■ 本質的な進化への挑戦

令和8年度は、単なる改善ではなく、本質的な進化に踏み出す一年です。

私たちは問い続けます。

「それは顧客のありたい人生にとって最善か」

そして、もう一つの問いがあります。

「その支援は、本当にその人の人生を前に進めているか」

もし、その答えに迷うなら、私たちの支援は、まだ足りていないと捉えます。

■ 先人に学び、未来をつくる

私たちは、先人たちが積み重ねてきた実践に深い敬意を持ち、その価値を受け継ぎながら、これからの時代にふさわしい形へと進化させていきます。

顧客一人ひとりのありたい人生に向き合い、役割と誇りのある働きと暮らしを支え続けてまいります。

その一つひとつの実践が、この時代の問いに対する答えとなると信じて、私たちは歩み続けてまいります。

**役割を果たし、誰かを幸せにする人生こそが、
自らを幸せへと導く人生であると信じて。**

社会福祉法人光明会 令和8年度 心を新たに、理念経営を推進する新体制

シニアリーダー・部門統括職務

地域共生社会推進本部長
公職兼務（八街市議会議員）

小澤孝延

障害者就業・生活支援センター
就職するなら明朗塾 センター長
兼務 八街市地域自立支援協議会事務局
兼務 営業推進ユニット
兼務 八街市基幹相談支援センター準備室
兼務 顧客価値調査研究室

山本 樹



障害の有無に関わらず、誰もが
その人らしく安心して暮らし続け
られる地域共生社会の実現を、光
明会と地域の皆さまとの繋がりを
大切にしながら、ともに目指して
まいります。



法人理念の体現に向け全事業を
推進します。障害の有無に関わら
ず地域と一体になれるインクルー
シブな社会を目指し、豊かな地域
づくりと社会貢献に邁進してい
ます。

障害者支援施設明朗塾 施設長
兼務 人財創造部 人財創造責任者

兼坂 涉

八街市障がい者就労支援事業所 事業管理者
兼務 サービス管理責任者
兼務 新任事業管理者サポーター

山口 諭



当事業所は働くことで社会的役
割を得られる場として、障害のあ
る皆様と共に働くことを大切に、
一人ひとりが地域で自分らしく暮
らせる環境づくりに努めてまい
ります。



個々の能力を引き出す作業支援
を通じ、役割を果たす喜びを人
としての成長の糧とします。一人
ひとりの人間性を尊重した個別支
援を行い、お客様が目指す『あり
たい人生』を支え続けます。

総務部 部長
兼務 管理・メンテナンス室長

鈴木幸子

独立組織・事業管理職務

コンプライアンス室長

高橋沙織



法人を支える基盤部門として、
迅速かつ正確な情報共有と公正で
透明性の高い運営を推進し、業務
の標準化と効率化により法人の持
続的な成長と安定した運営に寄与
していきます。



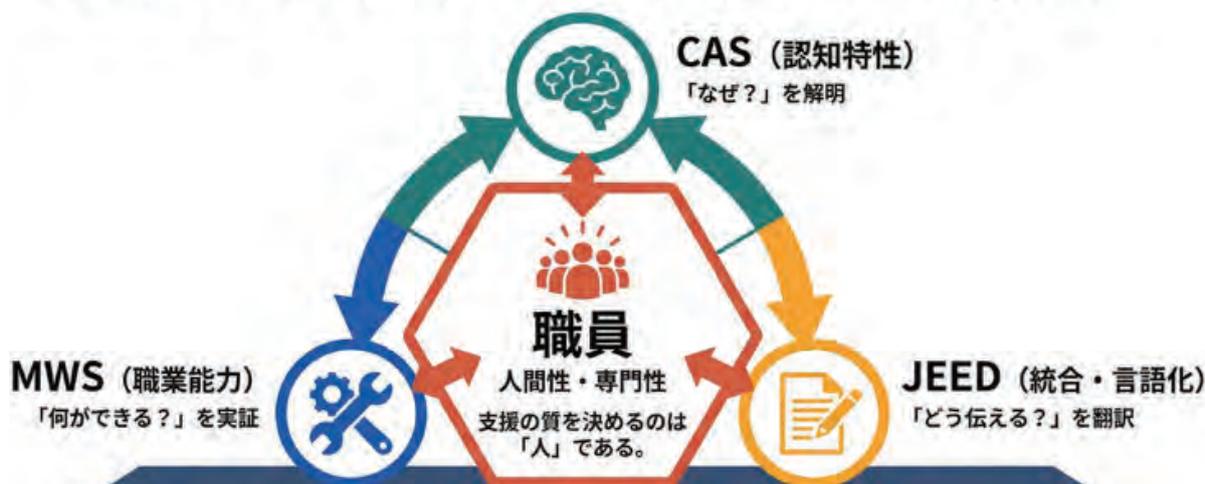
今年度はハラスメント対策、虐
待防止、交通災害防止の取組を継
続するとともに、カスタマーハラ
スメント対策を重点的に進め、安
心して働ける職場環境づくりと法
人の信頼の維持向上に努めます。

リーダー・事業管理職務	
<p>障害者支援施設明朗塾 目標工賃達成指導員 兼務 ワイナリー・ヴィンヤード事業開発室長 木内正弘</p>	<p>障害者支援施設明朗塾 副施設長 兼務 サービス管理責任者 工藤 純</p>
 <p>美味しいワインは、障害のあるお客様が育てたブドウから。今年はブドウ畑を拡張し、より多くの方に美味しさを届けられるよう活動します。</p>	 <p>新たにサービス管理責任者を拝命しました。利用顧客が、多様な「働く」を通じ、社会的な役割を持てる場を、顧客・職員、協働で提供していきます。</p>
<p>おいしい課 料理長 松本幸一</p>	<p>インディペンデンス 事業管理者 文達明香</p>
 <p>「おいしい課」では、協働をテーマに障害のあるお客様が調理業務に挑戦できるようにします。衛生管理を徹底し、笑顔溢れる「食」の幸福を追求します。</p>	 <p>お客様がグループホームで安心・安全に過ごせる環境づくりに努めます。関係する職員と連携しながらより良い支援体制を整えてまいります。</p>
<p>明朗カレッジ・さくらキャンパス 事業管理者 兼務 サービス管理責任者 兼務 就労選択支援事業推進ユニットリーダー 幸島 繁</p>	<p>就職するなら明朗アカデミー・白井キャンパス 事業管理者 兼務 サービス管理責任者 兼務 就労選択支援事業推進ユニット 高木夢貴</p>
 <p>明朗カレッジ・さくらキャンパスは、多機能型として革新的な再始動を果たしました！専門性と人間性で、一人ひとりの未来を切り拓く、地域一パワフルな希望の拠点を目指します！</p>	 <p>昨年10月に開始された就労選択支援を今年度はさらに質を高めていきます。利用されるお客様が最適な「ありたい人生」を歩めるよう独自のアセスメントモデルを展開します。</p>
<p>就職するなら明朗アカデミー・成田キャンパス 事業管理者 秋坂 翔</p>	<p>ウエルネス倶楽部・明朗カレッジ 事業管理者 愛川定章</p>
 <p>令和8年度は『地域』との繋がりをキーワードに、就職するなら明朗アカデミー・成田キャンパスは新しい取り組みを行なっています！</p>	 <p>国籍や世代を超え、誰もが気軽に集える「地域の広場」を目指します。多様な個性を尊重し、笑顔で交流できる拠点作りを推進します。</p>
<p>相談支援事業所MEI 事業管理者 村田かおり</p>	<p>総務部 ICT推進室長 岩澤芽実</p>
 <p>「私たち抜きに私たちのことを決めないで」という本人中心の考えを大切に、関係機関と連携しチームで地域生活を支える相談支援を目指します。</p>	 <p>法人内の情報ツール等の活用支援に取り組むとともに、ICTとAIの活用を進め、職員が安心して業務に取り組める環境づくりと効率化を進めてまいります。</p>

全国屈指の30件の実績から導いた 意思決定支援の「新基準」

令和7年度、光明会の就労選択支援で30件という全国屈指の実践を積み上げました。この実践から見てきたのは、客観的なデータを基にしたアセスメントの必要性です。令和8年度、光明会は新基軸の「光明会アセスメントモデル」を標準化し、ご本人が「根拠」に基づいて自分の人生を選択できる社会を、また相談支援専門員の皆様のコーディネートに強力にバックアップします。

光明会アセスメントモデル 概念図 (SHELL Model Inspired)



光明会アセスメントモデルが、強みを「数値」と「特性」で解き明かす！

- CASアセスメント (認知特性): CAS (千葉県発達障害者支援センター) が採用する、認知特性アセスメント。「なぜ指示が伝わらないのか」という脳の処理の特性を解明。ミスコミュニケーションが起こる根本原因を特定します。
- MWS: 幕張ワークサンプル (職業能力): 「なんとなくできそう」を卒業。エラー率や作業速度を数値化し、具体的かつ客観的なパフォーマンスを実証します。
- JEED (統合・言語化): 特性と能力を統合。関係機関や企業への「オリジナル情報資産」となる、配慮事項などを言語化します。

相談支援との高い親和性。シナジー効果 ⚡

私たちの役割は、相談支援専門員の皆様が描くプランに『客観的な指標』を提供することです。共に協力し、ご本人を深く知り、意思決定できる環境を整えていきましょう。

就労に関する相談支援の現場で、こんなお悩みありませんか？

- 新規相談で情報が少なく、コーディネートの方向性が定まらない。
- 既存の関係性で、見えにくくなった現状を「客観的なアセスメント」でプランの再構築。
- ステップアップや環境調整を提案したいが、指標とする「根拠」がない。

一つでも当てはまった方は、今すぐご相談ください！

【お問い合わせ】

明朗カレッジ・さくらキャンパス 担当：幸島 繁 (こうじま しげる)

TEL：043-312-1047 LINE公式アカウントもぜひご活用ください。

右記のQRコードより、ご相談を受け付けております。





明朗カレッジ さくらキャンパス

4年間で見つける「自立」のカタチ



事業管理者 幸島 繁より皆さまへご挨拶

「就職するなら明朗アカデミー・佐倉キャンパス」は、令和8年4月より「自立訓練（生活訓練）」を新たに導入し「明朗カレッジ・さくらキャンパス」として再始動いたします。学びを通じて、自分らしい人生の選択肢を増やすことを目標とし、全国屈指の実施件数を誇る「就労選択支援」のリーディング事業所として培った知見を支援に統合。私たちは、地域の「希望の拠点」として、信頼される存在を目指します。

あなたの「働く」を多機能で支える

- 働くを整える：自立訓練（生活訓練）【定員6名】生活リズムの安定と、生活・社会スキルトレーニングを通して、自己管理の土台作りで働く準備。
- 働くを叶える：就労移行支援【定員14名】就職支援実践プログラムと、客観的データに基づく「あなただけの取扱説明書」を作成し、自己決定を支援。
- 働き続ける：就労定着支援 就職後も定期面談を通じて、職場の環境調整から、長く安定して活躍するための伴走支援。
- 働く力が見える化：就労選択支援 光明会独自のアセスメントモデルで、働く力が見える化し、「働くを選択」する意思決定を支えます。

「多機能型就労支援」の新基準

- 強み①：4年間で見つける、自分らしい「自立」のカタチ
いきなり就職を目指すのではなく、自立訓練と就労移行を組み合わせた「4年制シラバス」で、学びを通じて、心身の土台をじっくり作ります。この学びの積み重ねが「働く自信」を育み、自立の基礎を築き、人生の選択肢を増やします。
- 強み②：未来へのパスポート
就職が決定した際、ご本人の強みと必要な合理的配慮を言語化した「取扱説明書」を完成させ、企業へ確実なバトンとして繋ぎます。「働く」をスタートラインと捉え、長く安定して活躍し続けるための指針を提供します。

（文責 事業管理者 幸島 繁）

成田空港第2の開港プロジェクトと障害者雇用の未来について

令和7年度 第2回地域意見交換会（障害者雇用サミット）



講師 富村勝明氏

障害者就業・生活支援センター 就職するなら明朗塾では、令和8年2月9日、ホテル日航成田にて「令和7年度 第2回地域意見交換会」を開催いたしました。今回は当初の予定を大きく上回る、200名を超える企業・学校・福祉関係者の皆様にご参加いただいたほか、多数の市町村長やご来賓の方々にもご臨席賜る大変盛大な会となりました。

前半の基調講演では、成田国際空港株式会社総務人事部人事室長の富村勝明氏をお迎えし「成田空港第2の開港プロジェクトと障がい者雇用の未来」についてお話いただきました。アジアで航空需要が急伸する中、日本の国際競争力を維持するためには首都圏空港の機能強化が不可欠であり、成田空港がその

重要な受け皿として期待されています。講演では、雇用創出に向けた「就業・居住統合サイト」の立ち上げや、空港で働く魅力の発信など、空港と地域が連携して『職住近接型のライフスタイル』を提案していくという今後の目標が示されました。

後半のパネルディスカッションでは、障害者就業・生活支援センター就職するなら明朗塾センター長の山本樹がコーディネーターを務め、富村氏に加え、株式会社JALサンライト成田事業部事業部長の高橋徹氏、全日本空輸株式会社人事部グループ障がい者雇用推進室室長の井田裕二氏、成田市地域自立支援協議会会長の大島真理子氏にご登壇いただきました。これからの地域での障害者雇用のヒントとなる現在の取り組みや現場の実践を具体的な事例とともにご紹介いただいたほか、今後の空港の変革に伴い、働き方だけでなくインフラ面での変化も求められること、そして多様な人財が活躍できる環境を支える「プラットフォーム」の重要性について展望が語られました。「企業と福祉がお互いの距離を縮め、知識と知恵を共有していくことが、障害のある方の働きやすい環境づくりにつながり、空港から地域へと雇用が広がる原動力になる」という意見で締めくくられ、未来に向けた力強いメッセージとともにディスカッションは幕を閉じました。



プラットフォームの重要性に発言が集中

今回の地域意見交換会は、成田空港周辺の企業様や自治体の皆様が一堂に会する貴重な機会となりました。成田空港が「第2の開港」に向けて動き出す一方で、障害者雇用を取り巻く環境も、令和7年4月の除外率引き下げ、そして令和8年7月の法定雇用率引き上げと相まって、大きな転換期を迎えています。障害者雇用がかつてないほど大きく変化しており、今後さらにこの成田エリアへの注目が集まること予想されます。

障害者就業・生活支援センター就職するなら明朗塾では、今回の議論を踏まえ、次年度はいよいよこの協働の動きをさらに加速させるための「プラットフォーム」の設置に向けた準備に入ります。このプラットフォームは、成田国際空港株式会社、日本航空株式会社、全日本空輸株式会社をはじめとする関連企業の皆様に中心的な役割を担っていただけるよう大きな期待を寄せつつ、各自治体からの力強いバックアップを受けながら推進していくことが重要であると考えています。ダイバーシティの観点から、障害の有無に関わらず「誰もが働きやすい成田空港」の実現を目指し、地域の皆様とともに歩みを進めてまいります。



みんなの働く応援マルシェの様子

また、同日に会場外で開催された「はたらく応援マルシェ」には14の福祉事業所に参加いただきました。様々な事業所が手掛ける製品の販売やサービスの紹介が行われ、多くの方々にお立ち寄りいただき大盛況のうちに終了いたしました。

ご参加・ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

（文責 就業支援担当 寺尾あさぎ）

福祉の卓越した専門性を究めるための学び合い

令和8年2月7日（土）、社会福祉連携推進法人光る福祉主催「第4回福祉の専門技量実践研究発表会」が開催されました。当日は、光る福祉の理事、評議員、評議会構成員の他、構成社員である社会福祉法人光明会、社会福祉法人開拓、株式会社グッドライフの理事、評議員を初め、それぞれの職員が参加し、総勢80名ほど集まりました。発表者は全員で9名、光明会からは4名の職員が発表しました。

【当日の発表者】

発表者氏名	発表演題
兼坂 渉	しなやかで強いチームづくりをしていくための実践について
幸島 繁	就労選択支援事業における実践研究
秋坂 翔	社会福祉法人光明会就労移行支援事業における今後のサービス展開
山本 樹	成田空港エリア・未来共創 プラットホーム設立の提案
奥 大成	運動プログラム実施による体重変化を指標としたグループホームにおける生活支援の実践研究
設楽 勉	個性を伸ばし自信に繋げる支援
佐藤ひな 佐久間かおり 吉谷一紀	15名規模の0歳児クラスにおけるゆるやかな育児担当制導入と「安全基地」形成に関する研究
船木溜衣子	ペアレントトレーニングを通して得られた保護者の変化事例
長島光希	当事業所における放課後等デイサービス利用者の足底板（インソール）の取組み （第2回および第3回福祉の専門技量実践研究発表・光る福祉 award 受賞者）



心に響くプレゼン受賞者の
幸島繁さんと内藤晃代表理事



光る福祉賞受賞者である
佐藤ひなさん、佐久間かおりさん
吉谷一紀さんと内藤晃代表理事



会場には80名の参加者が集
構成社員同士学びを深めました

【第29期(令和7年度)リーダー養成ゼミナール 受講生からの声！

本講座は、全国社会就労センター協議会(セルプ協)が主催し、今後の就労支援事業所を担う者としての必要な知識やマネジメントスキル等の習得、就労支援事業所の関係者間のネットワークの構築を目的に開催されています。今年度は社会福祉法人光明会からは2名のリーダー職員が参加しましたので報告いたします。



総務部長
鈴木幸子

全国の仲間と志を共有し、使命と責任の重さを改めて自覚しました。

得た学びは知識にとどまらず、実践力へと高め、法人と地域の未来に確実に還元していきます。



事業管理者
秋坂 翔

リーダー養成ゼミナールでは、他県の福祉事業所の管理者の方々とお話しする機会をたくさんいただき、とても良い学びと刺激を得ることができました。これからも、多くの方々とのつながりを大切にしていきたいです。

(文責 施設長 兼坂 渉)

親睦会 仲間との絆づくり
鎌倉&江の島、東京ディズニーシー



令和8年1月11日 鎌倉&江の島 第1班



令和8年1月15日 鎌倉&江の島 第2班



令和8年1月18日 東京ディズニーシー 第1班



令和8年1月21日 東京ディズニーシー 第2班

令和7年度の職員向け親睦会旅行は「選べる日帰り旅行」を企画しました。1つが鎌倉&江の島、もう1つが東京ディズニーシーです。1月の寒い中、お天気に恵まれた日もあれば、突風で江の島大橋を渡るのが大変だった日もありました。参加した方からは「いっぱい歩いて疲れたけど楽しかった」や「美味しいものをたくさん食べました」などの感想をいただき、企画した親睦会役員一同嬉しく思います。今後も、日々業務に奮闘する職員のために英気を養う、楽しいイベントを企画していきます。(文責:親睦会会長 小松南保)



ぼうねんかい -おざわさだあきかいちょう- のぶかい-
望年会 -小澤定明会長を偲ぶ会-



望年会風景



小澤美都子様よりあいさつ

故・小澤定明会長を偲ぶ会として令和7年12月12日に「望年会」を行いました。皆様は「望年会」の漢字が違うことにお気づきでしょうか。一般的には「忘年会」の漢字を見かけることが多いと思いますが、今年度は希望の望をとり「望年会」にしました。望年会の意味は「新年に向けた希望や抱負を語る会」となっております。会長の想いを我ら光明会職員一同、これからも受け継いでいくという意味を込めています。故・小澤定明会長の志を胸に、これからも日々の支援に取り組んでいきます。

(文責:親睦会会長 小松南保)

今年も美味しいワインができました！

光明会ロゼスパークリングワイン販売開始

令和7年8月26日（火）と27日（水）に、明朗塾のお客様と職員でワインブドウの収穫を行いました。26日はメルロー（赤）という品種を約600kg、27日はピノ・グリ（白）とソーヴィニオン・ブラン（白）という品種を約190kg収穫できました。



令和7年8月28日（木）には、明朗塾で収穫したワインブドウ3品種約790kgと、山梨で甲州という品種のブドウを約410kg購入し、合計1,200kgのブドウを長野の醸造所に搬入しました。搬入後、ブドウを除梗破砕機に入れて、ブドウの房から実だけを取り出し、その後プレス機に入れて果汁を絞りステンレスタンクに入れます。そこに酵母を入れることで発酵が始まります。



ブドウを機械に投入



ステンレスタンクで発酵



綺麗なロゼワインができました

発酵が終わると、澱引き（おりびき）や清澄（せいちょう）、濾過（ろか）を行います。令和8年1月21日（水）には、炭酸充填したワインの瓶詰め作業を行い、今年は940本のロゼスパークリングワインができました。



誇らしげな副施設長工藤純と支援員高岡徹

940本のワインが完成しました

【お問い合わせ】

社会福祉法人光明会 障害者支援施設明朗塾
〒289-1103 千葉県八街市八街に20番地
TEL:043-442-0101 FAX:043-440-2020
ワイナリー・ヴィンヤード事業開発室 室長 木内正弘

1本 3,500円(税込)
ホームページからご購入いただけます



(文責 室長 木内正弘)

光明会の宝・永年勤続職員

社会福祉法人光明会では、長く勤務してくださっている職員に、勤続10年の永年勤続表彰を行っています。今年は、職員3名が表彰されましたので、ご紹介いたします。

10年勤続

堀内ひとみさん

就業・生活支援センター
就職するなら明朗塾
生活支援担当

Message

光明会に迎えていただいてから、気づけば10年。還暦間近の私を温かく受け入れてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。亡き会長をはじめ、皆さんの支えのおかげで続けられました。ありがとうございました。



10年勤続

赤塚 毅さん

八街市障がい者就労支援事業所
明朗ワークス
指導員

Message

就職するなら明朗塾、明朗ワークスと巡り、あっという間の10年でした。皆さんに支えられ、充実した日々を過ごしていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。



10年勤続

内貴美奈さん

共同生活援助事業所
インディペンデンス
アシスタントサービス管理責任者
兼務 世話人

Message

先輩方や同僚の皆さん、お客様とご家族様に支えられ、勤務し続けてこられました。日々、悩みながらも学び続け、チームで支える大切さを実感しています。これからも初心を忘れず、皆様と共により良い支援を目指して努力してまいります。



(文責 指導員 吉田 翔)

ご寄付・助成金のお知らせ

大塚建工株式会社様より野菜乾燥機をご寄贈いただきました！



本機の導入により、これまで規格外や余剰分としてやむを得ず廃棄していた野菜を乾燥加工によって有効に活用できるようになります。

現在、乾燥野菜を活用した新商品の開発も進められており、どのような商品が誕生するのか楽しみです。今後の展開にぜひご期待ください。

丸紅基金助成金により、ステレオスプレーヤー(動力噴霧器)を導入！



このたび、丸紅基金の助成により、ワインブドウの薬剤散布に使用するステレオスプレーヤー(動力噴霧器)を導入いたしました。本機の導入により、作業効率が大きく向上します。これからもブドウの品質の向上と安定した生産に努め、明朗塾のワインをより多くの皆さまにお届けできることを、私たちも楽しみにしています。

(文責 主任事務員 岩澤芽実)